



獅子舞い

獅子舞いは、梅坪を除けば八王子市内九か所の神社で毎年奉納されている。特に美山（旧山入）の髭獅子舞は、江戸時代以前から伝承される中国伝来の原始的獅子で、関東周辺で唯一貴重な馬毛獅子だという。

美山町の髭獅子舞いは、日枝神社と琴平神社の例祭において、一年交代で五穀豊穡、悪霊退散を祈願し奉納されている。

しかしながら、伝承する人々は年々減少の一途であり、後継者問題が今の課題となっている。

貴重な伝統芸能を何時までも受け継いでいって欲しいものである。



琴平神社 （東部地区）



日枝神社 （西部地区）

◇見どころ

八王子の奥座敷といわれる山入川上流、美山町バス停終点から、繊維団地までの約5kmの行程である。採石場と採石運搬トラックを除けば、荘厳な雰囲気山村である。

まず素朴な山の神を奉る山祇神社から八幡宮跡、百万遍供養塔、敵穴、井戸入りの井戸、遠の谷戸の地蔵群を見て、獅子舞で有名な日枝神社に着く。仲井の十王像(?)と、小さな地蔵群を見学。

さらに下り、枝垂れ桜で知られる大光寺、養福寺跡、馬込の地蔵を拝し、松木の地蔵堂に出る。ここには閻魔大王の石像やしばられ地蔵などの石仏がある。

そして、八王子で漢方医として活躍した松井玄同の墓、お屋敷の地蔵群を見た後、滝山城主大石遠江守開基の乾晨寺へ。ここでは、八王子空襲で焼けた門を見、次に、だいたらぼっち伝説の縄切山、縄切薬師堂を経て、繊維団地バス停で解散。

①山祇神社

祭神 大山祇（おおさんぎ）神社の
美山町二六一二

お札
美山街道北側、守谷家の西山麓に祀られている。

間口百六cm、奥行き百cm東向きの社屋内に、全長三十五cmの石祠が祀られ大山祇のお札が納められている。遠の谷戸の山の神として信仰され、山仕事の繁栄を祈願して御神酒の竹筒が供えられている。採石業者の山神会も安全祈願に参詣する。



山祇神社



山入川の上流



山祇神社拡大

●八幡宮跡

美山町二五二

お林入口、山入川の山麓の杉林を約10m登ったところに八幡宮の跡がある。

一段上に大きなモチの木があり、根本に伝説の塔、宝篋印塔（全長三十八cm）が端正な姿で静かに立ち、その近辺に板碑四基があつたと言われているが、残念ながら残骸が一部あるのみである。



宝篋印塔と板碑

②百万遍供養塔

美山町三五一

部落の中央にあり、美山街道の北側に建っている。

供養塔

自然石 全長 土台石より一六〇cm
刻 百万遍供養

嘉永五年壬子四月吉日

供養塔は、嘉永五年（一八五二）遠の谷戸十五戸で建立した。

百万遍供養とは、仏の加護を願い、南無阿弥陀仏を百万回唱える念仏行事である。

昭和の初め頃まで盆、彼岸および悪疫が流行した時などに、当番の家に集まり車座になって数珠、鉦を叩

きながら念仏を唱えた。

現在は行われてはいない。



百万遍供養塔

③敵穴

美山町一八五

浜田氏宅庭先の山麓に、北条時代に造られているという横穴式住居跡がある。

昭和三十三年頃、浜田氏が自宅庭先の山裾をサツマ芋保存用として穴を掘ったら、ぽっかりと穴が現れ、掘り進めると横穴の入口であつた。

奥の広さは四畳位で、石が敷かれ、煙突らしき穴もあつたとか。むかしから敵穴といわれている穴で、隠れ宿、避難所などとして使われたと伝わっている。



敵 穴

●井戸入りの井戸

地蔵群脇の小径付近は井戸入りで、浜田家東の崖下に深さ二・五m、幅二mの溝があり、その底部から清水が湧き出ている。

この湧水が、山入り三井戸の一つ西の井戸である。

掘り井戸がなかった頃の柄杓井戸で、貴重な生活用水であった。蔓付きの桶に長柄の柄杓で水を汲み入れ、天秤に桶を掛け肩に担いで家まで運んでいた。現在は、その場所さえも分かっていない。

●遠の谷戸の地蔵群

地蔵橋の東から、南に入る小径の西側に、六基の地蔵が北を向いて並び、街道を行く人を見守っている。

- ・ 地蔵 平成元年
 - ・ 青面金剛三猿 嘉永元年戊申（二八四八）
 - ・ 地蔵 天明八戊申歳（二七八八）
- 残りの三基は崩壊して下部のみ。

地蔵橋の西、山本家の入口右に馬頭観音、橋の北側山頂に第六天が祀られている。



石 仏 群

④美山の日枝神社

美山町二四五一

勧請 享保十五年（一七三〇）
祭神 「皇国地誌」によると「大山

咋（やまずみ）命」

「八王子市史」によると「大

己貴命」

大正六年（一九一七）建立した、

高さ二m、幅二・五mの大鳥居を潜って広い境内の参道を三十mほど進むと、広場中央に日枝神社、右に境内社の王室神社、神社左前に参集殿がある。

日枝神社は、東部の琴平神社と並ぶ西部の氏神様で、祭礼は琴平神社と一年交替に四月第二日曜日に美山町の祭礼として行われている。

社殿は、入り母屋造り、間口三・六m、奥行五・六m。文化十一年（一八一四）に再建、明治十一年と三十年に修復した。



日枝・王室神社鳥居



日枝神社全景
王室神社 日枝神社

● 王室神社

おおむろ

王室神社は、美山町に鎮座しているが、明治の初めごろ日枝神社境内に鎮座したと伝えられている。

新神殿 間口四m 奥行五m
内陣殿 間口八十三cm、奥行百

四十六cm

ご神体 八咫の鏡 墨書

昭和初期まで境内に天満宮、産土神社があり、神楽殿もあった。天満宮、産土神社両神殿は、王室神社社屋内に安置されている。



大正天皇即位祈念碑

● 大正天皇即位祈念碑

祈念碑 自然石 全長百四十八cm

刻 大正天皇即位大福奉賀祈念碑

大正四年十一月十日

日枝神社と王室神社の間にあり、碑の脇に大正天皇御即位記念樹の銀杏を植えたが、成長し大木になったため、平成五年に伐採した。



庚申塔

⑤ 仲井の地蔵

「小さな石仏の集まり」

仲井の小川にそって美山街道から仲井道を北に約百m入った浜田家の裏庭に盛土の台上に石塚があり、段々を形成し、十五基の小さな石仏が並んでいる。

個々の石仏の名も定かではないが、仏教説話の十王像と奪衣婆(だつえ)などの関連像と思われる。



小さな石仏

⑥ 弘法伝説の仲井の井戸

仲井道の途中に、弘法大師の伝説の井戸がある。

弘法様が教えてくれた井戸は、昔は石で囲った浅い柄杓井戸で、四軒が共同で使っていた。

どんな日照りの時でも涸れたことはなく、大雨の時も濁ることはなく、特別な水脈が確保されている。渇水の際は、遠くの人も、この水を求めてやってきたという。



仲井の井戸

⑦ 長光山大光寺

美山町六二五

宗派 真言宗 智山派

本尊 不動明王

寺宝 阿弥陀如来立像

(鎌倉時代鑄造)

半鐘(江戸時代中期)

開山 慶賢法印

開創 室町時代永祿年間(一五五八

〜六九)

「新編武蔵風土記稿」によると、「除地四石二斗六升六合、小名鹿子沢ニアリ新義真言宗同郡寺方村宝生寺末長虎山ト号ス開山・開基詳ナラス本尊不動木の座像長一尺余り本堂六間四方異向キナリ」

「皇国地誌」によると、「境内十五間南北十四間三尺面積二百十七坪已十五度字鹿子澤第六百二十五番地ニアリ同郡西寺方村真言宗宝生寺末派ナリ永徳元年(一三八一)辛酉僧長円ト言ウモノ開基創建スソノ後火災ニ

罹リ一旦鳥有二属セシヲ宝歴九年巳卯(一七五九)十月僧慶禅之を再興ス」

この他に、開山は慶賢で、永祿八年(一五六五)八月十八日寂とあり、また明治十七年に中興したとの記録など諸説がある。

大光寺は古くから獅子宿で、雨乞い獅子、祭礼獅子の頭が安置されていて、獅子舞の練習が行われ、雨乞いの神事、祭礼の時もこの寺から一行が繰り出す慣わしになっていた。

明治の初め頃、大きな山門の脇に薬師堂があり、そこが寺子屋になっていて、明治五年学制が敷かれた後、明治七年山入村では大光寺の寺子屋を借り受け、小学校にしたと伝えられている。

明治二十二年小足に新校舎が建設されるまで山入小学校であったと伝えられている。

毎年四月八日の花祭りには、「天井天下唯我独尊」と、上方と下方を指差しているお釈迦様の銅像(全長三



大光寺

十五cmくらい)が厨子から出されて、甘茶を頭からかけられた。子ども達は寺を訪れ、お釈迦様に甘茶をかけ、その甘茶を頂いて帰り、習字に使用すると上手になるといわれていた。お釈迦様は戦災で焼失し、現在のお釈迦様は昭和四十年代に造立された。



地藏と庚申塔



大光寺の桔梗紋

⑧向戸山養福寺跡

美山町一八五一

宗派 禅宗臨済派
本尊 如意輪観音木の座像長さ一尺五寸

開山 正隣宗

開創 不詳

美山街道戸沢峠交差点より、南に進む小径の周辺は馬込の中心であり、養福寺があった地で、小径の突きあたり山入川南岸の山は戸向山である。養福寺は昭和二十年(一九四五)の大空襲で全焼し廃寺なった。



半鐘

⑨馬込の地蔵

美山町一八二二
中央公園の東に地蔵と馬頭観音が建っている。
地蔵

刻
台座正面に
下山入村願主 祖心
同 馬込治太良



福寿寺跡

同 藤助
同 おさい
同 銀蔵
右側面 三界萬早寛政四子年
左尊面 二月吉日（一七九二年）
馬頭観音 文字自然石全長五十cm
刻 馬頭観世音明治十三辰
埋込梅吉郎

美山小学校東の南側路傍に地蔵堂が建っている。平成六年道路改修の時造られ、間口奥行共百cmの堂屋で、今まで風雨にさらされていた如意輪観音像が屋内に祀られた。

如意輪観音像 丸彫三段造り
(下) 角柱五十六cm
(中) 蓮華台座十五cm
(上) 丸削立像二十五cm、
全長九十六cm
刻

角柱部に 女人講中
寛政三亥壬年十一月吉日
(一七九二)

⑩産土神社

うぶすな

生まれた土地の守り神。氏神、鎮守の神である。

ウブ（産）ストナ（土、地）との結合したもの。ウブスはウムスと同源でウムスは略してムスとなり「苔むす」などと使われる。

産まれてくる子供や家族の健康、無病息災を祈る親族らが、今でも訪れて祈願している姿が見受けられるという。



馬頭観音と三界萬霊塔



松木地蔵堂



産土神社

⑪ 松木の地蔵堂

美山町一六八五

松木橋の先、二十三夜塔の西の台上に松木地蔵堂があり、延命地蔵尊が祀られていたと伝えられている。

新編武蔵風土記稿によると、「年貢地小名馬継ノウチニアリ三間半ニ二間半地蔵ハ木ノ座像ニテ長サ一尺二寸百姓持チ」と書かれてあり、創建は不詳だが、養福寺の分院として建てられたと伝えられている。昭和二十四年（一九四九）の伊勢湾台風で倒壊し、昭和六十二年（一九八七）再建された。地蔵堂内奥には祭壇が設けられ、壇上には内殿三つの他に、石仏などが祀られている。

境内の閻魔堂の閻魔大王は、八王子近在でただ一つであるといわれている貴重な石像である。古くは、左右に鬼の像を従えていたが、長い間に行方不明になった。他にも地蔵が多数あり、中には珍しい「しばられ地蔵」がある。



しばられ地蔵



松木地蔵堂内部



閻魔大王

⑫ 松井玄同の墓

美山町

湯立山麓、お屋敷川沿いの松池の生まれで、徳川末期から明治にかけて八王子を中心に蘭方医として活躍した松井玄同の墓石が建っている。

墓石には十字架と医祖玄同と刻まれている。

明治二十三年九月五日没。

松井家墓地内に湯殿山前の畑より出土した板碑が二基、当主松井彰氏によって保管されていて、一部刻が読みとれる。

・ 種尊は 三〇尊 長禄二年

(一四五九)

・ 全長 四十 cm
□□□ 彌□陀 不明
全長 二十五 cm



松井玄同の墓



松井家の墓

● お屋敷の地蔵群

お屋敷道の中程にお地蔵様が並んでいる。右より

・ 青面金剛三猿 笠付全長九十九 cm

刻 御屋敷講中 文化十年

・ 地蔵 光背 全長六十八 cm

刻 不明

・ 地蔵 丸刷 全長九十一 cm

刻 享保三年

念仏講中為一世安楽

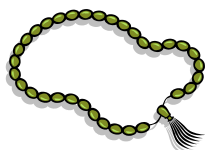
・ 地蔵 丸刷角柱 全長百八 cm

刻 昭和七年 長野せん

・ 地蔵 下半身のみ 全長四十 cm

刻 不明

念仏講は、今でも信者によって伝承されている。





お屋敷の地藏群

⑬ 琴平神社（稻荷権現）

美山九七七

勸請 年代不詳
祭神 金山彦命、「皇国地誌」による
と崇徳天皇

御屋敷敷道の尽きるところは、琴平山（標高三百m）の登山口であり琴平神社の参道、十m程登ると、高さ三m、幅二・五mの一の鳥居、更に七十m登った右側に、御屋敷敷地区の山の神の祠がある。

二の鳥居を過ぎ、更に急坂を登りきると山頂に琴平神社が鎮座する。美山町東部の氏神様であり、古い社殿は、昭和四十九年（一九六四）台風で倒壊し、平成六年社殿を再建した。現在は、鯺獅子舞の奉納は五十年以上前から境内では行われていない。今は美山町の中央児童遊園で行われている。



琴平神社一の鳥居



琴平神社扁額

⑭ 獨峯山 乾晨寺

けんしんじ

美山町一四九一

宗派 曹洞宗
本尊 聖観世音菩薩 釋迦牟尼佛
開基 滝山城主大石遠江守
開山 法名甲久院殿草原栄種居士
心源院第四世自山臨罷（りんぱ）大和尚
永禄八年（一五六五）示寂

開創 応仁二年（一四六八）ごろ

乾晨寺は、下恩方の浄福寺と共に戦国武將大石氏が建立し、自山臨罷が開山したという由緒あるお寺である。

本堂背後に山、前面に石垣を配した城構えの築造形式が特徴であり、まさに戦国武將の造った城である。

本堂、その他の建物は、昭和二十年八月の八王子大空襲で焼失したが、残ったのは、焼け跡が残る中央の山門、僧が書いた山門の揚額、それに三本あった松の内、二本である。

「新編武蔵風土記稿」によると、

境内山林一萬六千坪小名萩殿ニアリ禅宗曹洞派下恩方村心源院末獨峯山ト号ス開基滝山城主大石遠江守法名甲久院殿草原栄種居士卒年詳ナラス開山自山臨罷永禄八年七月八日寂ス本尊聖觀世音木ノ立像二尺五寸行基ノ作ナリト云本堂十一間二七間南向
獨峯山ノ大字又普門閣等ノ額アリ境内ハ山ニヨリテアリ故ニ七峯七谷ナ

ト呼ヘルトコロアリ今御朱印五石ヲタマハレリ

衆 寮 本堂ノ西ノ方ニアリ東向

七間二二間ナリ

弁天堂 本堂ノ西ニアリ二間四方

南側ニ小池アリ弁天木

造長五寸

鐘 楼 本堂ノ南ニアリ鐘ニ「武

州多摩郡由井領山入

村獨峯山乾晨禪寺 第

五世中興松雲叟代元禄

四年辛未十一月吉日」ト

刻ス

本堂内の位牌堂に觀音木彫立像（全長六十二cm）が安置され、鐘は本堂前に吊されている。この鐘は戦時中萩園にあった火の見櫓で半鐘として使用され、戦後寺に戻ってきた。境内の石仏群として、聖觀音菩薩立像、阿弥陀如来像、六地藏（日光地藏・徐蓋障地藏・特地藏・寶印地藏・寶朱地藏・壇陀地藏）、灯籠二基がある。



乾晨寺石垣



乾 晨 寺



焼けた乾晨寺総門の柱



乾晨寺楊額



縄切山

⑮ ナギレ山

美山町一三〇〇

地名伝説「だいだらぼっち」が置いていったといわれている山で、茜橋北側にあり、標高二百一・六mで、中央部が低くくびれているので二ツ山とも呼ばれている。

⑯ 神明・八坂神社

神明神社の祭神は天照皇大神で、創建は八坂神社と共に平安後期頃ではないかという伝説が残っているが定かではない。

古くは、重左衛門谷東の山中腹にあつて、大正十年に修復されたと伝えられている二間四方の神殿であつた。

昭和四十一年の台風によつて倒壊した。翌昭和四十二年、縄切を信奉している村田順造氏によつて、現集会所の地に遷座したものである。

新社殿は薬師堂堂屋と共に、風雨に強い金属造りにした。コンクリートの台座の上に、間口一m奥行き一・三mの社殿で、内に内神殿があり、御神体八咫（やた）の鏡が祀られており、祈願木札が数枚奉納されている。



神明・八坂神社の中



神明・八坂神社



薬師堂



八坂明神の地蔵と板碑

◎参考資料

- ・我がふるさと美山町
- ・美山町鯨獅子舞資料
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子市史
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・昭文社
- ・インターネットページ